



今月の援農状況

Let's Activate Area AGRI

- 農家に 固定した会員が 継続的に応援にうかがう方式がさらに一件実現しました。農家固有の事情を理解しての効果的作業が期待されます。
- 夏物野菜苗 — トマト・キュウリ — のハウス内での定植作業に汗をながしていただきました。
- エンジン草刈り機による除草作業が 早くも はじまりました。

援農体験記 「直販に参画して」 めじろ台 中井光三

昨年11月から直販岩佐グループに参画 岩佐さん 加藤さん 小野寺さん 飯島さん等諸師 そして飛田さんを含めてオール女性に囲まれ、やっと最近その一員としての仕事ができきたかな？ 販売場所は3-4箇所 それも毎月僅か3-4日ではありますが 私は前日に畑の収穫、農家からの仕入れ そして当日の搬入搬出だけのお世話。販売は路上の為 その日の天候に合わせて陳列や自分の服装に工夫をして耐えて皆さん頑張っています。地産地消の前提の農産物直販 我々も農産物の栽培と同時に直販を通して消費者動向を探り新鮮な野菜を家庭まで届けて はじめて すずしろ22の活動の一端が達成されていると感じています。野菜の種類、収穫仕入れ量、小売価格、陳列方法、鮮度保持、パッケージそして販売目標などを考えて消費者に応接。その動向を農作業計画に反映されれば幸いです。

農園・SPP・イベント 便り

- ☆ 農家の計画・管理・指導のもと主体的な援農作業
- ☆ 技術体得・会員交流・遊休地対応の活動



上川口 セリ摘みの人々
すずらん のらぼうの中で



◇上川口

「農地として復活・活用」と「動物保護」の両面に対する微妙な配慮が求められる段階になってきました。

地元の方々が この日 7人ほど セリ摘みにみえました。

◇カ石

周囲の方より「よく エンドウが寒さに負けず育っている。例年時期での種まきでは全滅した」— 遅まきのけがの功名。

◇すずらん

ビタミン菜に続きのらぼうが青々と葉を茂らせています。5月連休あけには 早くも片付け作業が迫っていて 後地は昨年好評だった「里芋」を 100株単位で定植の予定です。

「せせらぎの光とセリを 摘みにけり」 (朝日)



根菜の越冬

新しい年の種として活用するため3種類ほど 保存してみました。

- ① ヤーコン 寒さに強く 特別な対策を講じなくとも 元気に発芽。食材としても土中から 必要時に 掘りだして利用が可能。
- ② さつまい 50cm程 垂直に掘った穴にわらを敷き土をかぶせシートカバをしたところ約80%は元気。1メートルの深さにすればOKか。
- ③ 生姜 さつまいより寒さに弱く越冬はかなり工夫が必要か。「南向きの斜面のトンネルが必要」との説に納得するもの そうした場の確保が難題。



チョット耳にした情報・アドバイス

(1) 「夏野菜の定植は 連休明けから」

4月下旬になっても霜対策の話題が聞かれます。「トマト・茄子・キュウリ等の苗定植は5月連休明けから」とか。「せっかくの苗が風邪をひく」とも。店頭にならぶ苗も心配です。

(2) 「かき殻石灰」

数年前まで 2000円/20kg ほどの値札がついていた記憶がありますが それが600円程度まで安くなってきています。含有成分の面からも有機栽培の普及には朗報でしょうか。

(3) 「木酢液 竹酢液」

「バラのウドンコ病に効果あり」との説から始まって その利点が 強調された時期がありましたが「タール成分」に対する疑問の声が 最近はずよくなってきているようです。



事務局からのお知らせ

人材—農家需要 と市民意欲のマッチング

(1) たけのご堀り

「桜が咲いたら たけのご採り」と聞いていますが 今年は寒暖差の大きい異常気象でイベントでの収穫状況が心配でしたが満足の結果。参加者は4/24日17人、4/27日12人でした。

(2) 学校給食への野菜納品

「地産地消のシンボリックな活動」との声をを受けて その運用体制の拡充につとめています。契約校もおかげさまで14校。今年度は2グループで担当することになりました。

(3) NPO 法人としての「市民農園」の開設

総会で 報告しました案件が 少し具体的な動きになってきました。場所はか住農協の南100mの地。開設目標 9月1日・区画面積 50㎡・使用料 年間2万円。

<発行 会報紙編集会>

台津 highz_85@cosmos.ocn.ne.jp 飛田 emiko_tobita@ybb.ne.jp 川口 leaf-river-86@nifty.com